

親水空間論

時代と場所から考える水辺のあり方

日本建築学会編

ISBN978-4-7655-2573-2
B5判・160頁 本体3200円＋税



本書は、建築、都市、地域において発散気味、ブーム的に扱われてきた水辺を振り返るとともに、従来まで必ずしも体系的に整理されてこなかった水辺に対する時代的な扱い方や水辺の持つ場所性について顧みることを意図して取りまとめられた。第1部「親水空間論」で「親水」を「時代」と「場所」で論じ、第2部「親水事例編」で各先進事例を紹介する。

川の蛇行復元

水理・物質循環・生態系からの評価

中村太士編

ISBN978-4-7655-3446-8
A5判・276頁 本体3500円＋税



直線河川と蛇行河川とはなにが違うのか。河川は本来どのような流れ、どのような自然をつくりだすのか。我が国の河川管理の歴史と蛇行河川の地形・生物地理学的特徴を踏まえ、北海道標津川において進められている、直線化された河川を再び蛇行させるプロジェクトを通じて得られた、再蛇行による水理、物質循環、生態系への効果などの知見を取りまとめた。

自然と共生した流域圏・都市の再生

流域圏から都市・地域環境の再生を考える

丹保憲仁監修

ISBN978-4-7655-1774-4
B5判・270頁 本体2800円＋税



人口の増加、気候の変動に伴い、世界でさまざまな水問題が起こっている。世界の安定と福祉の向上のためには水問題の解決が不可欠である。わが国でも総合科学技術会議において「水・物質循環と流域圏」研究が続けられている。本書は、この研究の一環として行われているワークショップの講演内容をまとめたものである。

流域圏から見た明日

持続性に向けた流域圏の挑戦

辻本哲郎編

ISBN978-4-7655-3441-3
A5判・334頁 本体3500円＋税



人間活動の拠点である都市の再生において、持続性をはかりながらのそれは、流域圏をどうするのかの議論なしには達成できない。流域圏が潜在的に持つ水循環・物質循環システムの健全さを維持することが、持続性につながる。本書は、流域圏をベースに、国土管理を考えたときの背景、市民と都市や農業・農村政策等の流域圏での人間活動における社会的取り組み、持続性に向けた流域圏の評価について、河川行政、河川工学をはじめとした総勢10名の執筆者とともに、今後の流域圏管理の在り方について考える。

都市と河川

世界の「川からの都市再生」

吉川勝秀編著／伊藤一正著

ISBN978-4-7655-1741-6
A5判・274頁 本体2900円＋税



「道路による都市形成」から「川からの都市再生」へ。かつてモータリゼーションの進展により道路を中心とした都市づくりが進められてきた。しかし、道路は都市を分断し環境を悪化させる。これからは道路を撤去、地下化するなど積極的な施策も含めた川（水辺）を中心とした都市づくりが求められる。すでに世界では、韓国・ソウルのチョングジョンをはじめ各地で「川からの都市再生」が進められている。国内でも日本橋上空の高速道路撤去などが議論されている。本書は世界の先進的な事例を視覚的に紹介する。

水辺のまちづくり

住民参加の親水デザイン

日本建築学会編

ISBN978-4-7655-2525-1
A5判・218頁 本体2600円＋税



住民参加型の水環境整備とまちづくりをどのような観点から評価し、どのように実践していくべきかを事例をとおしてまとめた書。それぞれの執筆者が、具体的な整備計画案が作成されていく過程で、住民参加型のワークショップなどに参画した体験をもとに、ファシリテーターの役割、周辺住民と一般市民の利害関係の調整、意見交換をとおした計画案の収束過程などに触れながら、特徴ある住民参加型事業の実践を紹介した。

川の環境目標を考える

川の健康診断

中村太士・辻本哲郎・天野邦彦監修

ISBN978-4-7655-3431-4
B5判・136頁 本体2800円＋税



河川環境について、その目標を具体化し、提示しながら環境保全に取り組む書。目標設定の流れや分析・評価といった用語をイメージしやすくするために、人の健康診断の類推表現を適宜用いている。その上で、河川環境の目標設定の流れの概要や留意事項、目標設定の流れの全体像や段階ごとの内容、現状の把握から保全・再生の必要性の評価までの段階で利用できると思われる手法を示した。また、適宜概念的な項目については解説を加えるとともに、今後さらに議論が必要な論点を整理した。

河川汽水域

その環境特性と生態系の保全・再生

楠田哲也・山本晃一監修

ISBN978-4-7655-3429-1
A5判・366頁 本体4600円＋税



『河川法』、『海岸法』の環境条項の追加、『自然再生法』の施行等、法制度の整備は進みつつある。だが、汽水感潮域や沿岸域では、環境保持、生態系保全が本格的に扱われるには至っていないのが実情である。法制度の不十分さと、自然科学現象解明の不十分さがその理由といえよう。しかし、河川汽水域は、生物多様性の確保、食糧の保障の点でも重要な空間であり、この生物生産の場の保全・再生は緊喫の課題である。本書は、河川生態学、水環境学、応用生態学、河川工学に関わる学生、実務者、技術者、研究者、行政官の格好の参考書である。

海岸工学

その誕生と発展

港湾空港技術振興会監修／合田良實著

ISBN978-4-7655-1684-6
A5判・216頁 本体3600円＋税



「海岸工学」がどのような背景のもと1950年に誕生したか、その後どのように発展してきたか、実務家の視点で技術知見の変遷をまとめる。海外で普及しながら日本ではあまり使われない研究成果や、逆に日本の優れた技術でありながら海外での認識が低い知見についても触れている。著者の見聞に基づきまとめた防波堤の被災事例などのコラムは興味深く、本論の理解を助ける。海岸工学を学ぶ学生や、今後の海岸・港湾の研究方向を探る研究者・技術者にとって必読の書である。

海浜変形

実態、予測、そして対策

港湾空港技術振興会監修／栗山善昭著

ISBN4-7655-1682-2
A5判・170頁 本体3200円＋税



砂浜は様々な恩恵を我々に与えてくれるにもかかわらず、日本では相当量の砂浜が年々、姿を消しています。本書は、海浜変形を正しく理解して実務に役立てていただくための材料を提供することを目的としています。第1～6章では主として国土交通省の地方整備局や地方公共団体の海岸担当者を読者として想定しており、付録A～Eはコンサルタント技術者を想定しています。このため、第1～6章ではできるだけ式を使わずに基本的な事柄だけを説明し、推定式の説明などは付録A～Eで行うように配慮しました。